

3 森林・林業の将来像

3.1 理念

私たちの暮らしは、豊かな自然の恵みと活発な都市活動を基礎に成り立っています。将来にわたって、都市の成長と環境の保全が両立した環境と共生する持続可能な都市づくりが求められています。そのためには、本市の環境を構成する大きな要素である森林の多面的な働きを高めるとともに、林業が育んだ森林資源を活かす必要があります。

そこで「価値ある森林の共創」を理念（基本的な考え方・不変なもの）とし、森林や林業に関わる人、山村に暮らす人、さらには本市に住むすべての市民が協働し、森林の多面的な働きを高めるとともに、林業が育んだ森林資源を活かす価値ある森林を創り、世界に発信し、次の世代に継承します。

【理念】 価値ある森林の共創



安全な木材を供給する森林

< 森林の多面的な働きを高める >

安全で安心な林産物を供給できる「価値ある森林」
 水源をかん養し、山地災害を防ぐ「価値ある森林」
 森林を守り、美しい景観を創る「価値ある森林」

「価値ある森林」を次の世代に継承します。



レクリエーションの場としての森林



林業生産としての森林



生態的、経済的、社会的などの働きが高い森林



水源かん養や山地災害を防ぐ森林

< 林業が育んだ森林資源を活かす >

森林や林業を学び、豊かな心を育む「価値ある森林」
 森林レクリエーションや山村との交流を楽しむ「価値ある森林」
 地域材を使い、生活に潤いを与える「価値ある森林」

「価値ある森林」を世界に発信します。



学びの場としての森林



交流の場としての森林

3.2 目 標

「価値ある森林を共創」することによる「森林」と「市域」の姿、「市民」の暮らしを、目標として設定しました。

視点 **森 林**

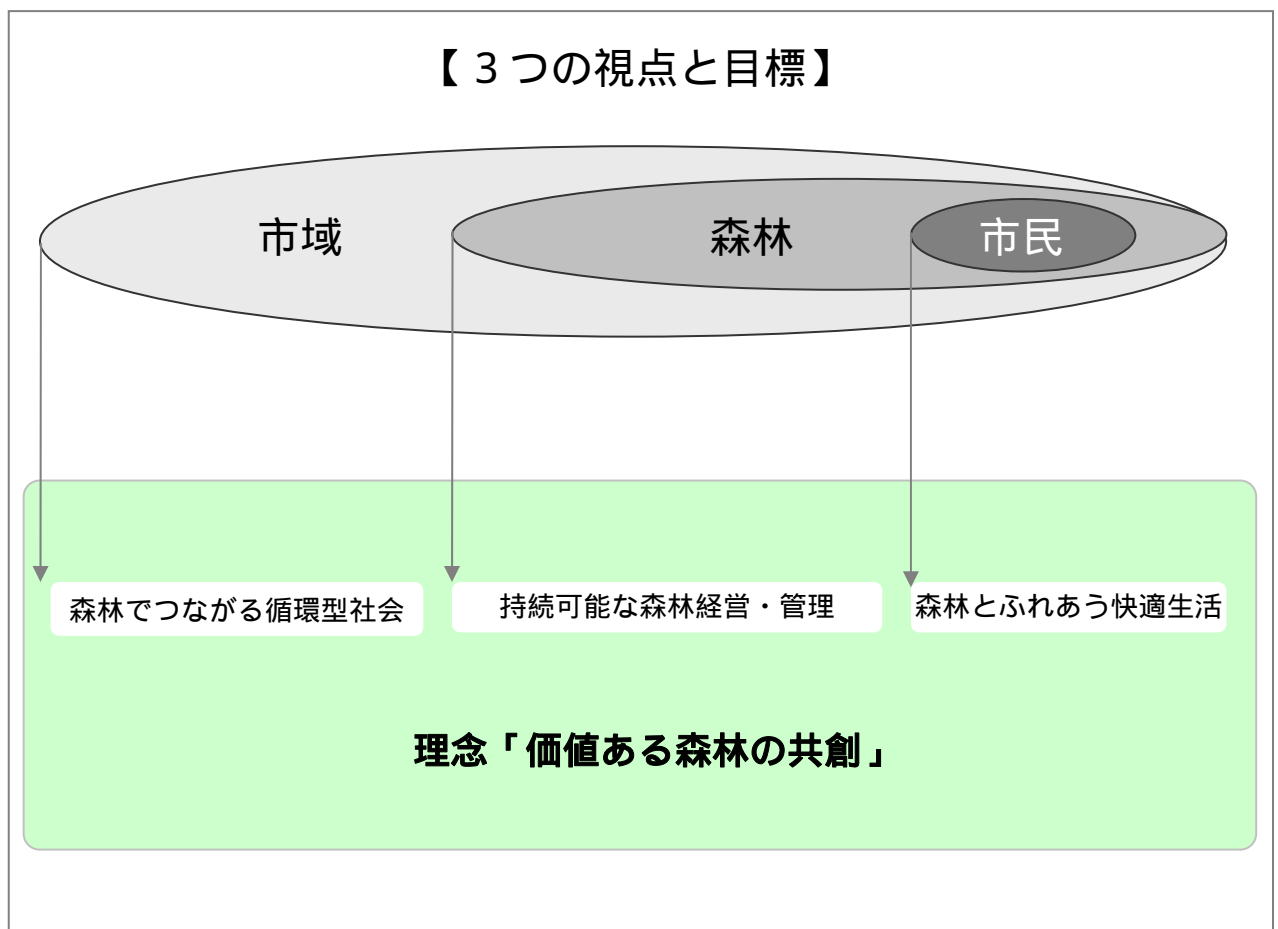
本市は、広大な森林を有しています。今後、本市の森林では、持続可能な方法で森林を経営・管理します。

視点 **市 域**

本市は、川上と川下が一つの市域です。今後、本市の全域では、森林でつながる循環型社会を形成します。

視点 **市 民**

本市の森林・林業は、80万人の市民から応援を得ることができます。今後、森林とふれあう市民の快適な生活を実現します。



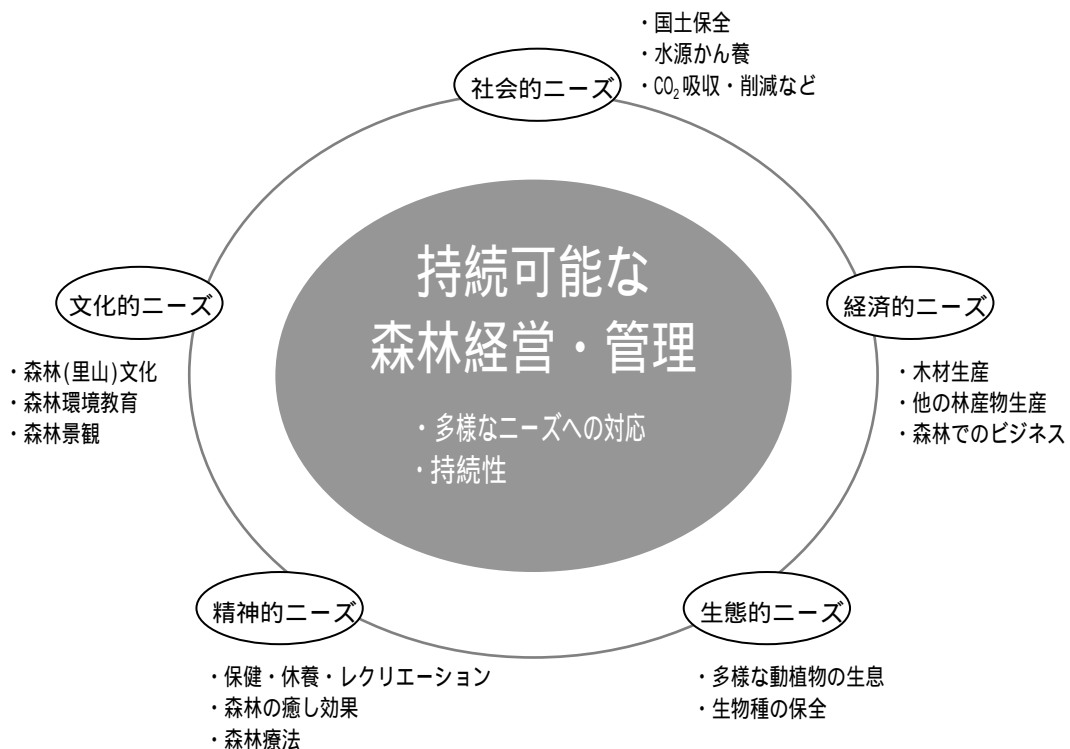
(1) 森林としての目標

本市には経済と公益を両立させる技としての林業があり、それは持続可能な森林経営・管理そのものとも言えます。森林の多面的な働きを高め、森林資源を活かすために、森林の視点では「持続可能な森林経営・管理」を目指します。

【目 標】 持続可能な森林経営・管理

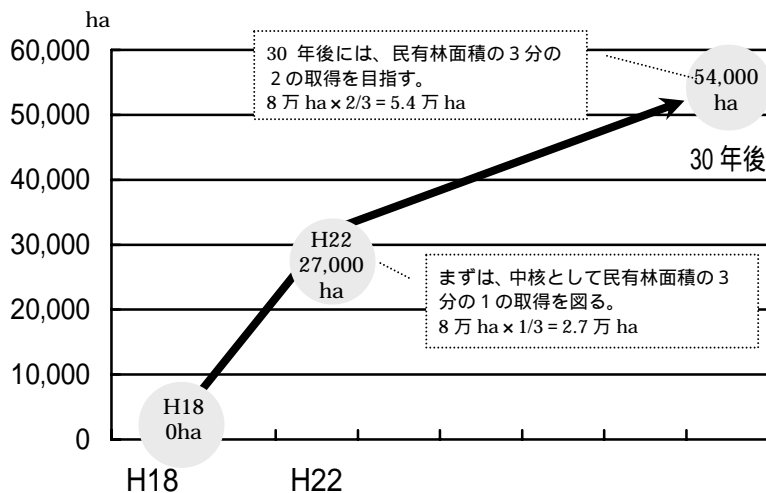
持続可能な森林経営・管理	現在及び将来の人びとの多様なニーズを満たすために持続的に行われる森林経営・管理。
多様なニーズ	社会的、経済的、生態的、文化的、精神的なニーズ。
森林認証の基準例	<p>森林認証は、持続可能な森林経営・管理が行われていることを第三者機関が評価・認証する制度です。認証の取得には、次のような基準を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての法律や国際的な取決めを守っている。 ・地域社会や労働者と良好な関係にある。 ・豊かな収穫があり、地域からも愛され利用される森である。 ・多くの生物が住む豊かな森である。 ・調査された基礎データに基づき、森林管理が計画的に実行されている。 ・適切な森林管理を行っているかどうかを定期的にチェックしている。 ・貴重な自然の森を守っている。

多様なニーズと持続可能な森林経営・管理



森林認証取得面積

持続可能な森林経営・管理が行われていることを森林認証により明らかにした面積

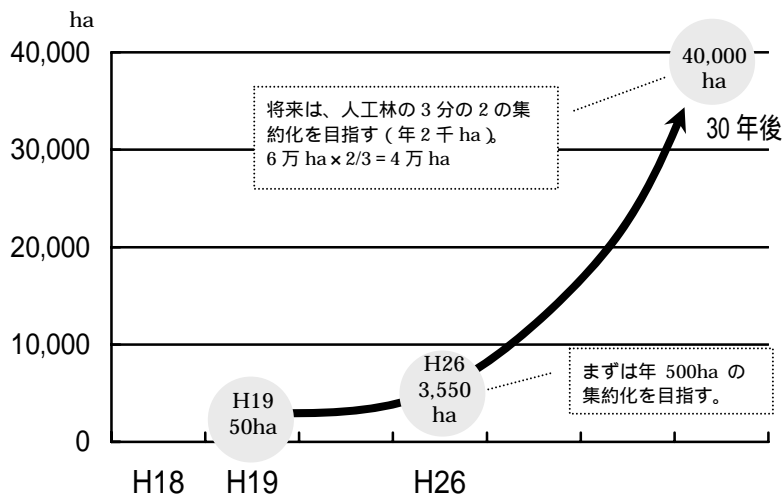


森林認証面積 54,000ha

人びとの多様なニーズを満たす持続可能な森林経営・管理は、全世界共通の課題です。本市は環境と共生する都市として、市内の森林で持続可能な森林経営・管理が行われていることが、森林認証の取得をとおして発信されています。

集約化森林面積

合理的な地形を単位として集約化された森林経営・管理が行われている面積

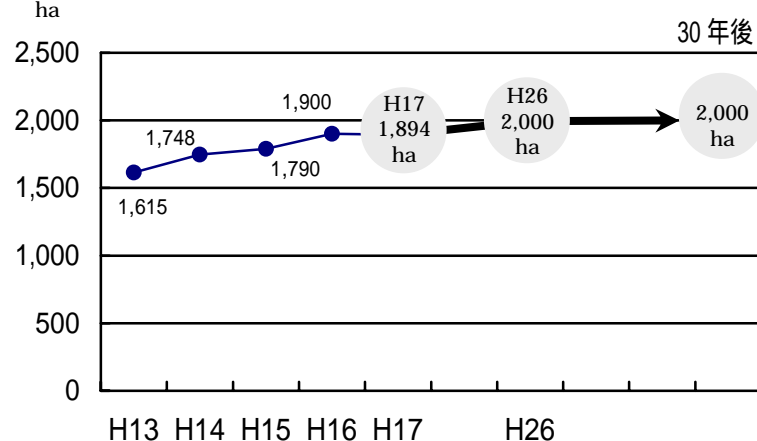


集約化森林面積 40,000ha

森林経営・管理を持続するためには、経済的に自立する必要があります。森林経営・管理の集約化を進め、事業規模の拡大を図り、生産性の高い林業(木材)生産が行われています。

間伐面積

本市の私有林のうち、年間の間伐(択伐)する面積(標準伐期後の択伐も含む)



間伐面積 2,000ha

森林経営・管理を持続するためには、安定的な林業(木材)生産を行う必要があります。林齢に応じた適切な森林とする間伐(択伐)が、計画的に行われています。

(2) 市域としての目標

本市は、広大な森林と市街地が同じ市域に含まれる特徴ある都市です。市域の68%を占める森林は水や木材などを通じて、本市の様々な場面につながっています。森林の多面的な働きを高め、森林資源を活かすために、市域の視点では「森林でつながる循環型社会」を目指します。

【目標】 森林でつながる循環型社会

水	森林を水源とする水は、河川、湖を流れ、豊かな海を創ります。また、農業や工業用水、飲料水として利用されます。さらに、水力を利用した発電も行われています。
木材	木材などの林産物は、住宅の部材となります。また、工業や工芸の原料ともなります。さらに、木質バイオマスは、代替エネルギーなどとして活用できます。
景観・空間	森林を中心とする景観や空間は、地域の象徴です。また、観光や療養に活かすことができるとともに、絵画や文学、音楽などの対象ともなります。

木材は再生産が可能な素材

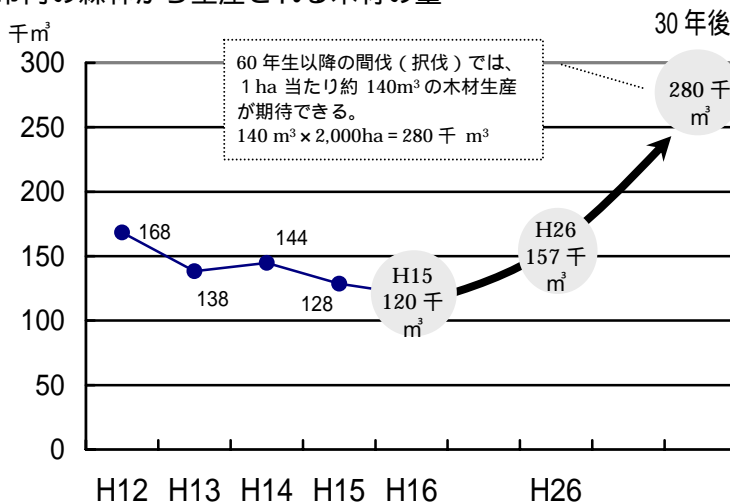


生態系の中で循環する生物資源である木材を、持続可能な森林経営・管理を行いながらできるだけ多く使うことが、地域の循環型社会を形成します。

森林ごとの想定面積と目標林況

区分	気候帯	現在の面積 (ha)	30年後の想定面積	目標とする林況
夏緑樹林 (落葉広葉樹林) と針葉樹林	冷温帯	約 7,700	維持	自然の植生遷移に委ね、ブナやミズナラ、モミなどで構成された森林とする。
スギやヒノキなどの人工林	冷温帯 暖温帯	約 61,800	維持	森林資源の活用を図り、適正な密度が保たれた人工林とする。
竹林	暖温帯	約 500	減少	2,500本/ha(モウソウ)程度に維持されている竹林とする。
照葉樹林 (常緑広葉樹林)	暖温帯	約 5,000	増加	自然の植生遷移に委ね、スダジイやアラカシなどで構成された森林とする。
雑木林 アカマツ林	暖温帯	約 5,000	減少	定期的な更新を図り、コナラやアカマツなどで構成された森林とする。
クロマツ林	暖温帯	約 400	維持	計画的な手入れなどにより、クロマツとそれ以外の樹種が混交した森林とする。

木材(地域材)生産量
市内の森林から生産される木材の量



木材生産量 28万m³

木材が安定的に生産され、木材が円滑に循環しています。

また、水資源のかん養や生物多様性の保全などの多様なニーズを満たす森林が形成されています。

(3) 市民としての目標

本市には80万人の人びとが暮らしています。市民の森林・林業に対する市民の理解が深まると、森林・林業に対する市民の行動が期待できます。森林の多面的な働きを高め、森林資源を活かすために、市民の視点では「森林とふれあう快適生活」を目指します。

【目 標】 森林とふれあう快適生活

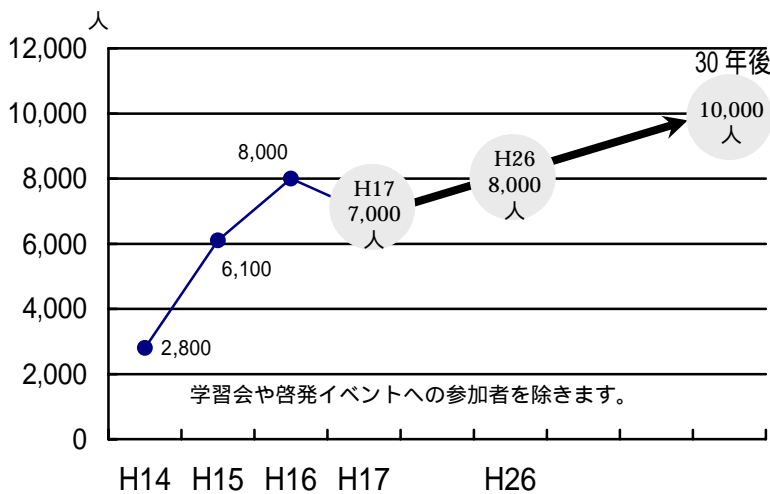
森林とふれあう暮らし	森林の木々から発散されるフィトンチッドには、心身をリフレッシュする効果があると言われています。森林でのレクリエーションや散策などによって、心身の健康増進を図ることができます。また、森林や農山村との交流によって、豊かな感性を育むこともできます。
木とふれあう暮らし	木材には、調湿、断熱、衝撃吸収、リラックスなどの効果があります。地域の風土に合った地域材の家に暮らすことによって、健康で快適な生活を送ることができます。
安心・安全な暮らし	水道の蛇口からは、いつでも水が流れ出てきます。私たちの生活に不可欠な水は、森林によってかん養されています。水の供給、災害の防止、地球温暖化防止など、森林があるから私たちは安心して暮らせます。

木とふれあう暮らし



(出典：社団法人日本林業協会「絵でみる森林・林業白書 木材をみんなで使っちゃおう！」から)

森林ボランティア活動者数
森林のモニタリングや森林ボランティア活動などに参加した人数

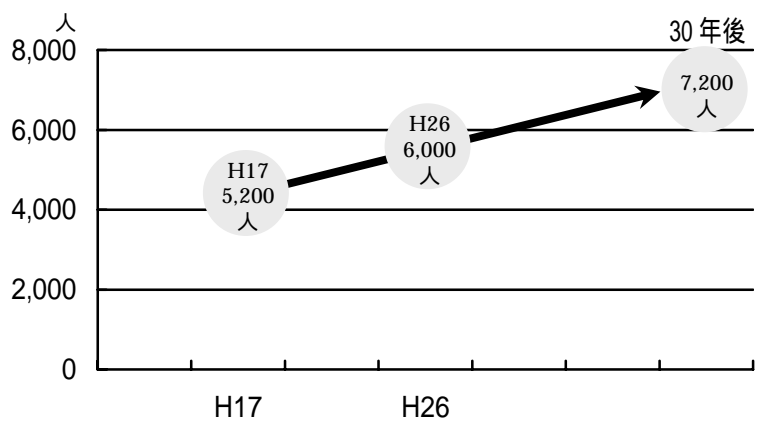


ボランティア活動者数
10,000 人/年

森林ボランティアは、自らの活動や体験をとおして、森林の働きや価値を市民に伝え、広めることが期待されます。

森林や林業の応援団となる森林ボランティア活動が各地で行われています。

中山間地域の活性化人口
中山間地域の定住人口に、1日あたりの交流人口を加えた人数

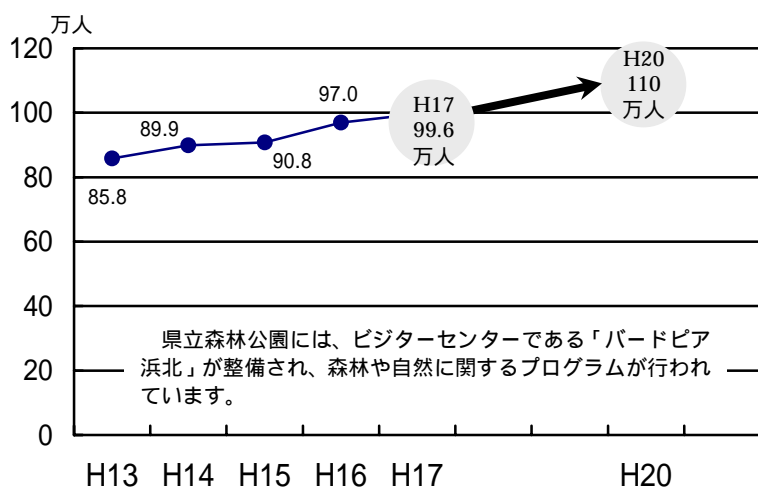


活性化人口 7,200 人/日

足を伸ばして山村に出かければ、森林やそこに住む人びととのふれあいをとおして心身の健康増進などを図ることができます。山村としても交流人口の増加は、地域の活性化につながります。

市街地と山村との交流が盛んに行われています。

森林公園への来園者数
県立森林公園（浜北）への入込み数



森林公園への来園者数
110 万人/年

市民が身近に森林と気軽に関われる場所として、森林公園などがあります。

森林や自然に関する理解を深めるプログラムなどにより、森林や自然に積極的に関わる意識が浸透しています。

目標値は県立森林公園運営協議会の数値